

市政懇談会（鳳至・海士・輪島崎地区）

議事要旨

日 時 令和8年10月10日（土） 13:30～14:40

場 所 輪島消防署 2F ホール

出席者 住 民：10名

行政側：輪島市 坂口市長、中前副市長、小川教育長、永井総務部長、上野企画財政部長、川端市民生活部長、河崎健康福祉部長、廣岡農林水産部長、山本産業部長、田川建設部長、木下教育部長

石川県 奥能登農林総合事務所・片平工事管理担当課長、高野林業振興課長 奥能登土木総合事務所・前田輪島事業調整室長、西輪島復旧復興課長、神崎輪島復旧復興担当課長

事務局：平田復興推進課長、一本松

① 市長挨拶

市 長：本日は大変天候に恵まれ、また連休の初日という貴重な日にこの市政懇談会にお越しいただき感謝する。

震災から3年目となった。今年は、いよいよ復旧・復興を本格的かつ目に見える形にして、加速させていく年としたいと考えている。3年目を迎え、様々な復旧がなかなか進まないという肌感覚を皆様もお持ちのことと思うが、今、その復旧・復興をどうやって加速化させ、進めていくかという体制がようやく整ったところである。この後、お手元の資料に基づき、私の方から4点ほどかいつまんで説明する。

この資料には、現在どういった復旧状況か、またどういった方針で進めているかをお示ししているので、お時間のある時にご覧いただきたい。何といたっても大きな被害を受けたということであり、本格的な復旧を進める上では測量調査設計が必要となるが、現在でも全体の8割程度しか設計が完了していない。残りの2割はまだ設計中であり、それほど大きな被害であったということである。

設計ができたものから順次工事として発注しているところであるが、ご存じの通り、地元の建設会社も非常に頑張ってくれているものの、人手が足りず、入札を行ってもなかなか仕事を引き受けてもらえない状況となっている。そこで、全国から大手の建設会社にも入っていただくこととなった。この後説明するが、輪島市を五つのブロックに分けた。特に、上水道、下水道、道路、河川、農林の様々な災害施設の工事が複合して重なっている地域においては、工事をそれぞれに分けて発注すると調整だけでも膨大な時間を要するため、一つの大きな企業体にお任せしようということで、5つのブロックを大手の企業に発注した。

この10月に様々な契約が進み、早いところは既に工事を行っているところもあるが、年内、そして年度内に工事を契約し、着手していくこととなる。本日は、市だけではなく石川県の土木や農林の担当者も出席しているので、どうぞよろしくお願いしたい。また、後方には市議会議員の皆様にもお聞きいただいているので、遠慮なく何でもお尋ねいただければと思う。

② 配布資料の説明

市長：まず、お手元の資料の1ページをご覧ください。「災害に対する備えの強化」についてである。一昨年あれほどの大きな災害を受けたため、もうこれ以上の大きな災害はないだろうと思いたいところであるが、いつどのような災害が起こるか分からないため、現在対策を強化している。左側に、地震が起きる前の状況はどうだったのか、反省点はどこにあるのかを示している。何ととっても、市内の孤立によって指定避難所まで避難できなかったこと、また避難所自体が非常に過密な状況になったこと、さらに水が止まったことでトイレをはじめとする生活環境が悪化し、感染症のリスクが増大したことが挙げられる。また、19年前の能登半島地震の被害規模に合わせて備蓄していたが、それが全く足りなかったことが反省点となっている。

今回の非常に大きな災害を踏まえた現在の取組として、指定避難所をさらに充実させていくことはもちろんであるが、それだけでは足りない場合や、道路の寸断によって指定避難所に行けない場合を想定し、それぞれの地域でご自身の集会所や神社、事業所などを避難所として届け出ることによって活用できる制度を作った。現在、その制度に基づいて13か所が認定されている。ここに認められると、簡易トイレや水などの物資を備蓄できるようになる。また、トイレの状況が悪かったという反省から、輪島市はトイレカーを3台購入した。たった3台かと思われるかもしれないが、全国の自治体でもこのような取組を行っており、いざ災害が起きた際には全国からトイレカーが集まる体制となっている。先般発生した熊本地震でも、他県からトイレカーが現地に入り支援を行った。

さらに、備蓄計画も充実させている。今回の災害を受けて、1日あたり1万2000人が避難所にいることを想定し、2日分の備蓄を行った。それに加え、市内の流通在庫を買い上げて1日分を賄い、合計3日分の物資をしっかりと確保することとしている。

次に、2ページをご覧ください。今年度で輪島市の総合計画が終了するため、来年度からの新たな総合計画を現在策定している。この総合計画は、本市のまちづくりにおける最も大切な最上位計画であり、基本的な指針となるものである。この計画策定にあたり、皆様にご意見をいただくためのアンケートを郵送しているので、ぜひともご意見をいただけますようよろしくお願いいたします。

次に、9ページをご覧ください。冒頭でお話ししたとおり、災害復旧・復興事業の重点整備エリアとして5つのエリアを指定し、復旧・復興を加速させていく体制が整ったところである。今年度を含めて、令和12年度末までの完了を目指す工事であり、10月に契約を行い、年内及び年度内の着手を進めていく。全国の手建建設会社が参入し、市街地の西部エリアは清水・日本道路・不動・里谷JV、東部エリアは鴻池・宮地JVにお願いしている。それぞれ200億から300億円規模の工事となる。輪島市として初めてECI方式を取り入れ、設計段階から建設会社の意見やアドバイスを取り入れながら柔軟に工事を進めることで、少しでも早く復旧を進めることとしている。

年内に着手するのは朝市エリア周辺の道路側溝や上下水道であり、年度内には袖ヶ浜側の鳳来鴨ヶ浦線などの道路工事にも着手していく。また、いろは橋や上新橋の工事なども進めていく。

10ページをご覧ください。「災害復興公営住宅の整備」についてである。現

在、仮設住宅から恒久的な住まいへの確保に向けて動いている。震災以降、自立再建される方々は市内全体で完成したものを含め約700戸弱が着工となっている。しかしながら、様々な事情によりご自分で再建することが難しい方のために、輪島市として災害公営住宅を整備する。全体で1219戸を受け付けており、そのうち980戸の整備が確定している。残りの239戸については石川県にご対応いただくこととなっており、建設場所や戸数について現在県と調整を行っており、決定次第公表する。

地区別・団地別の状況は左側の表のとおりである。ファミ跡地（557戸）は既に着工済みであり、来年の3月までに着工し、来年度中の完成を目指していく。ただし、社会情勢や設計の状況により多少前後する可能性がある。また、木造長屋の仮設住宅を改修・転用して災害公営住宅とする部分については、現在お住まいの方々にいったん、ほかの仮設住宅に移っていただく必要があるため、その調整に時間を要している。ご協力をよろしくお願いしたい。鉄筋コンクリートタイプや木造タイプの完成イメージについては資料のとおりである。この他にも病院等の整備が進んでいるので、お時間のある時にご覧いただければと思う。私からの概略の説明は以上とする。

③ 意見交換・質疑応答

鳳至町・住民：市街地では工事車両や大型車両がどんどん増えているのに、道がいまだにボコボコのままで何とかならないものか。地震前の倍くらい振動があり、何とか舗装して振動を半減させるくらいに道を整備してほしい。これから工事が進めば大型車両がさらに増えると思うが、災害時のまま穴をふさいだだけの状態では振動が大きすぎる。舗装すれば半減するのではないかと思うが、何とかならないだろうか。

田川建設部長：そのような状況は把握している。道路の舗装を直す前に、上下水道の工事を先に行う必要がある。

鳳至町・住民：それは十分分かるが、後からでもいいのでとりあえず道を真っ直ぐにほしい。後から下水を触るから5年後になります、では困る。

田川建設部長：冒頭に市長からも話があったが、今年度中に、上下水道の工事も含めた契約を予定している。まず国道・県道を優先し、上下水道の工事から入る。市街地の舗装についても、面的に整備・復旧を行っていく。そのあとに道路の舗装や側溝の舗装も追っかけて行っていく段取りである。いっぺんにできるわけではなくどうしてもタイムラグが生じるため、仮復旧を順次進めていく。県土木とも施工工程を確認しながら、応急的に復旧舗装すべきところを調整しているところである。上下水道の工事の進め方を見極めながら、時間がかかるところは舗装の補修を考えていく。

輪島崎町・住民：私のところにも、道路が全く直っていないと住民の皆様から苦情が数多く寄せられている。住民は、復興のスピードが遅いと感じると行政に対して不信感を抱くことになる。何年何月にどこをやるのか、下水道はいつになるのかを明確に示していただかないと困る。復旧・復興と言いながら、目に見えるところが何も進んでいないように見える。早く進めるための体制がようやく整ったとのことだが、具体的にどう進むのか見通しを示してほしい。

市長：設計や測量、土質調査に時間がかかったことも分かるが、半島の先端という立地でコンサルタントや工事関係者の宿泊場所確保に苦労しているという事情もある。プレハブの宿舍が建ち始め、1500人体制の受け入れに向けてようやく体制ができてき

た。農業委員会の農地転用許可などに時間がかかる規制もあったが、10月から契約が順次入ってくる。もう少しだけお待ちいただきたい。

鳳至町・住民：いつになったら工事が始まるのか、いつ下水道が入っていつ舗装されるのかという見通しを示してほしい。

田川建設部長：輪島西部エリアの道路復旧延長は、橋りょうの架け替えや補修を含めて約21キロメートルある。下水道が約19キロメートル、水道が約1700メートル、農地水路等を含めると概算工事費で約240億円に及ぶ。これを5年間で復旧することを目指している。下水は国道・県道を優先し、幹線道路の復旧を急ぐ。タイムラグが生じる箇所には仮舗装で対応し、作業員約300人を投入して順次進めていく。作業員宿舎や資材置き場のヤードも確保しなければならないため、今年度中に年度割りの方針を定め、決まり次第区長さんにも知らせる。

河井町・住民：工事車両をたくさん見かけるが、街中に着手する兆しが見えない。もう少し早く街中に取り組んでほしかったという思いがある。また、下水道を直してからとなると、市道は10年や20年かかるのではないか、このまま仮復旧で終わるのではないかという不安があるが、そのあたりはいかがか。

田川建設部長：5年間で完了を目指している。必要に応じて建設作業員をさらに増員し、下水班、橋りょう班、建築班などに分かれて進めていく。仮復旧のまま終わることではない。市街地の上下水道や道路、橋りょうのほか、県が手掛ける河原田川の復旧、北陸電力やNTTなどの電気・通信事業者、さらに国の国道工事を含めて、7つの団体が調整を行いながら進めているため時間を要した。調整を踏まえて工事を加速させる。

鳳至町・住民：市街地を優先してほしい。郊外の歩道を整備するよりも、一番人が通る市街地の道を優先してほしい。また、これから新しく下水を整備するなら、マンホールのふたを車のタイヤが通らない位置に動かしていただけないだろうか。車がマンホールのふたに乗り上げることでトラックの振動が大きくなっているように思う。

田川建設部長：災害復旧としてはまず元の高さに戻すことが優先となるが、ひどいところは早めに舗装の補修を行いたいと考えている。漆器会館の前など土木事務所の管轄とも連携しながら対応する。

海士町・住民：鳳来山公園が9月21日の集中豪雨で被災し、これまで何度も土砂が流れ込んでいる。大雨が降るたびに住民が避難するような状態である。山の大部分の雨水が流れ込む地形になっており、これまでの側溝では到底排水しきれない。早急に抜本的な対策としての側溝工事などの工法を考えていただき、復旧をお願いしたい。住民は家を建て直すこともできず困っている。

広岡農林水産部長：現地を先日確認し、林野庁にも現場状況を報告済みである。抜本的な対策については即答できないが、現地を再度確認して検討する。

海士町・住民：待ったなしの状況であるので、市のトップからも県土木や直轄で工事を行っている林野庁へ働きかけ、早急に着工できるようお願いしたい。

市長：林野庁が直轄で進めている工事であるので、林野庁へも早急な対策を申し入れていく。

河井町・住民：上下水道管の埋設に伴い、新しいパイプから自宅まで繋ぐ工事の費用について、自己負担は発生するのだろうか。

市 長：道路に接している宅地で、これまで下水管が引かれていなかった場所について、市街地の復旧工事において下水道の本管から公共ますまでは市が施工するため費用はかからない。ただし、公共ますからご自分の自宅までの敷地内の配管工事につきましては自己負担となる。

鳳至町・住民：新しく整備する学校施設について、災害時の避難所としての機能を想定し、被災者用のトイレや太陽光発電、雨水貯留施設などの災害対応設備を取り入れる予定はあるだろうか。

市 長：おっしゃるとおり災害時避難所になるので、電気設備を含めてしっかりと耐えられる施設として整備を進めていく。

輪島崎町・住民：いろは橋を何とか通してほしい。

市 長：いろは橋は危険なため現在通行止めにしており、橋をいったん落として新しい橋に架け替える。ただの平らな橋ではなく、周辺のイメージに残るような橋にしたいと考えている。市役所周辺から海までの橋はすべて架け替えとなり、残る橋は1本もない。新橋は国が権限代行で進める。下の基礎が傷んでおり危険であるため、根本的にすべて架け替えとなる。

輪島崎町・住民：サンアリーナ、サンプルルの復旧について。

まちづくり推進課長：サンプルルは令和10年3月、サンアリーナは令和11年3月の復旧を目指している。

市 長：施設の新設はお金がかかるため、直すことにした。

鳳至町・住民：中央公民館は、地区区長会の事務局機能もあり、研修などができない状態が続いている。もう少し活動場所を確保できないだろうか。また、市立図書館は仮住まいで利用できているが、門前図書館と比べると窮屈な印象がある。新しく建つまでの間、もう少し改善していただけないだろうか。さらに、復興の起爆剤となる洋上風力発電について、方向性を市民に分かりやすく訴えていくために、専任の係を置くなど積極的に進める姿勢を示せないだろうか。

市 長：洋上風力発電の実現に向けては、隣接漁協も含めた関係各所との調整が不可欠である。職員が水面下で懸命に調整を行っており、拙速に進めて途中で頓挫させることのないよう慎重に進めている。いくつかのハードルを越え、来年4月頃には市内の組織体制をさらに充実させたいと考えている。

図書館の整備については、震災前の計画に加え、文化会館の被災も踏まえて一体的な整備計画とするため、今年度の補正予算に調査費を盛り込んだ。来年度以降、基本構想の策定に向けた調整に入る。現在は仮設スペースでの運営となるが、早期の本格復旧を目指してインフラ復旧とあわせて加速させていく。

木下教育部長：中央公民館については、生涯学習文化課課長が中央公民館長を兼務しており、現在は市役所3階の同課で事務を行っている。活動場所については、輪島公民館がようやくシルバー人材センターの事務所の一室をお借りして活動を再開したところ

である。今後も各公民館館長や区長ともご相談しながら、住民の皆様が活動できる場所の確保に努めていく。図書館についても、移動図書館の運行や電子図書の活用など、本に親しめる機会の提供に引き続き取り組んでいく。

市長：洋上風力発電事業は過去に十分な調整を行わずに進めて頓挫した経緯がある。今回は同じ失敗を繰り返さないため、慎重に課題の解決と調整を進めているところである。事業の本格化に向けて準備が整いましたら、皆様のお力もお借りしながら進めてまいりたいと考えている。

